

## ☆人工呼吸器使う「医療的ケア児」

保護者の付き添いなしで就学可能に 長野市がガイドラインづくり

信濃毎日新聞デジタル 2022/03/06

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2022030600093>

> 日常生活に医療のケアが必要な「医療的ケア児」を県内の市町村で最も多く公立小中学校で受け入れている長野市教育委員会が、人工呼吸器を使うケア児を保護者の付き添いなしで就学可能にするガイドラインづくりに乗り出したことが5日、分かった。保護者の負担軽減や子どもの自立を掲げる2021年9月施行の医療的ケア児支援法を受け、今春中学校に入学する児童をモデルに段階的な環境整備を目指す。

市教委は12年度以降、腹部からチューブで胃に栄養を送る「胃ろう」やたん吸引などが必要なケア児が市立小中学校の就学を希望する場合、看護師の有資格者を配置し、保護者の付き添いなしで学習できる態勢づくりを進めてきた。市立小中学校に在籍するケア児は21年度、20校に26人と県内の市町村で最も多い。

一方、人工呼吸器の管理は「高度なケア」に当たり、保護者付き添いを通学条件としてきた。ケア児が多く在籍する県の特別支援学校が保護者付き添いを求め、市教委も同様の対応を続けてきた。

県教委は20年度末、5年間の試行の末、特別支援学校で研修を積んだ看護師が人工呼吸器にも対応する仕組みを整備した。県教委の動きや法施行を受け、長野市教委もガイドライン整備に着手。県内で初めて人工呼吸器を使って母親の付き添いで市立吉田小学校に通う6年生の小林詩(うた)さん(12)が今春、市立中に進むことから、専門知識のある外部看護師へのケア委託を含め、モデルとすることにした。

かつては特別支援学校への就学が原則とされた医療的ケア児。13年に成立した障害者差別解消法や同年の学校教育法施行令の改正で、本人と保護者の意向を尊重して就学先を決められるようになり、学ぶ場は多様化している。新潟県南魚沼市や大阪府豊中市などでは、親が付き添わず通学できる態勢を取っている。

長野市教委は、人工呼吸器を管理する看護師派遣の業務委託費や学校に備える非常用発電機の諸経費として計360万円余を盛った22年度一般会計当初予算案を市議会3月定

例会に提出。学校教育課は「特別支援学校と環境が異なる市立小中学校では高度なケアを要するケア児が安全に過ごせるか不安もある。（ガイドライン整備を通じ）受け入れ校の不安を軽減する必要がある」としている。

…などと伝えていきます。

☆重度障害児に付き添う長野市の母親 「学校の変化は社会の変化の一步」

信濃毎日新聞デジタル 2022/03/06

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2022030600173>

> 「うーちゃんの（中学校の）制服どんな？」。2021年12月下旬、長野市吉田小学校。6年1組の休み時間に女子児童が小林詩(うた)さん（12）に呼び掛けた。詩さんに付き添う母親の由香さん（44）が代わりに「白いラインのセーラー服だよ」。詩さんの車いすに付いた電子端末には「ともだちうれしい」と文字が浮かんだ。

詩さんは生後間もなく筋力が低下して肢体不自由となる難病を発症。1歳手前で人工呼吸器を着けた。発声もできず、わずかな表情の変化や、指先で操作する電子機器で意思表示をする。

16年、エレベーターを備えた学区外の吉田小に入学。両親は詩さんが将来、周囲の手を借りて地域で暮らす上でプラスになると考え選んだ。重度の身体障害がある子どもも受け入れる県稲荷山養護学校（千曲市）への通学は朝の混雑時、車で1時間以上かかり、看護師が同乗しないスクールバスは医療的ケア児の利用ができなかった事情もある。由香さんは6年間、運転して送迎してきたが、たんが絡んだ際は停車して吸引する必要がある、片道15分の運転でも「常に緊張して不安」と言う。

詩さんは知的には通常発達で、一部の授業を除いて通常学級で過ごしてきた。21年度から、呼吸器管理はできないものの看護師資格者が詩さんの呼吸の様子を見守り、由香さんは別室で待機してケアが必要な時だけ対応している。

詩さんのような重度障害児には教師が家に来て教える選択肢もある。ただ、吉田小で特別支援学級を担う横川しのぶ教諭（50）は「小学生は本来、親から離れて成長する時期」とし、自立できる環境を選べる重要性を指摘。小松賢吾教頭（50）は、詩さんの学

校生活は主治医や支援者の支えで成り立ってきたとし「知見を持つ専門職らによる協力態勢が欠かせない」とする。

医療の進歩で助かる命が増え、医療的ケア児は今後も増える見通し。由香さんは「多くの人にケアしてもらえることが本当の安心。学校現場の変化は社会の変化の一步になるはず」と話している。（園田清佳）



学習支援員の補助を受けクラスメートと一緒に授業を受ける小林詩さん  
（手前）＝昨年12月23日、長野市吉田小学校

…などと伝えていきます。

☆医療的ケア必要な子ども、災害時の対応は？ 長野市で看護師ら報告会

信濃毎日新聞デジタル 2022/03/06

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2022030600028>

＞ 県内の看護師らでつくる「減災ナースながの」は5日、酸素吸入やたん吸引など医療的ケアが必要な子どもへの災害対応を考える報告会を長野市内で開いた。災害発生時に学校内にいる場合を想定し、避難方法や人工呼吸器の電源確保を動画を交え紹介。清泉女学院大長野駅東口キャンパス内の会場とオンラインで計約120人が聞いた。

**NPO法人「親子の未来を支える会」（千葉市）の看護師河畠(かわはた)そのえさんは、長野市内の中学校で2月に行った訓練を紹介。人工呼吸器と車いすが必要な生徒を校庭に避難させたことを振り返り、「車いすを担いで階段を下りるのは大人3人がかりでも危険」と指摘した。**

**停電時の電源確保では、電気自動車（EV）の活用を紹介。同大看護学部助手の室(むろ)垂衣さんは「発電機が届くまでの応急手段として有効」と説明した。**



医療的ケアが必要な子どもの避難訓練の事例紹介があった報告会

…などと伝えています。